

膀胱發毛症ニ因スル膀胱結石ニ就テ

関山醫學専門學校附屬醫院產婦人科

藤田正夫

緒言

膀胱壁ニ發生スル皮様囊腫ガ、ソノ内容タル毛髮又ハ歯牙ヲ核トシテ結石ヲ形成スル事ハソノ報告セラルル所蓋シ多シトセズ。而シテ膀胱壁ニ發生スル皮様囊腫ヲ大別左ノ二種ニ區別スルヲ得ベク、第一ハ膀胱壁ニ原發スルモノ、第二ハ膀胱ノ近隣臟器例ヘバ卵巢皮様囊腫ガ膀胱壁ヲ穿孔シテ發育増殖シ以テ本腫瘍ヲ形成スルモノ等ナリ。而シテ此等皮様囊腫ヨリ結石ヲ形成スル事ハ容易ニ考ヘ得ル事ニシテ、現今マデノ報告ニヨレバ後者ニ屬スペキ例症ハ比較的多キモ前者ニ屬スベキ例症ハ甚稀有ナリトス。

曩ニトンブソン、ボガエスキー、ル・ジュウドル及ビマルチン等ハ膀胱内ニ原發セル皮様囊腫ノ報告アルモ何レモ皆結石ノ形成ヲ伴ハズト。

吉川傳氏ハ二十八歳ノ女子ニシテ尿意頻數尿利後重ヲ主訴トスル患者ノ膀胱ヨリ臼齒ノ如キ歯牙ニ及ビ多クノ毛髮ヲ核トセル結石ヲ摘出セリト。而シテ生殖器ニハ何等異變ヲ認メザリシヲ以テ恐ク膀胱壁ニ原發セシモノナリト報ゼリ。鈴木喜代之助氏ハ二十七歳ノ婦人ノ毛束ヲ中心トセル約鶏卵大ノ帶黃灰白色ナル結石ヲ得、卵巢ニハ何等ノ異狀ヲ認メズ、膀胱トハ分離シ居タルガ爲フリアント氏ノ説ノ如ク皮様囊腫ノ芽胞ガ膀胱壁中ニ迷入シテ生ゼル原發性皮様囊腫ナラント云ヘリ。

其他サキセル、梅田郁藏氏、ブロツクヘル及ビ高橋明氏等モ原發性皮様囊腫ト考ヘ得ルモノノ結石形成ヲ伴フモノヲ報告セリ。

藤田一膀胱發毛症ニ因スル膀胱結石ニ就テ

此所ニ注目すべきハ瀧川正雄氏ノ一例ニシテ同氏ハ歯牙ヲ核トセル膀胱結石ヲ手術摘出し、ソノ皮様囊腫ガ卵巢ヨリ波及セシニ非ザルヲ種々ノ點ヨリ説明シ恐らく膀胱壁ニ原發セル皮様囊腫ニ因スルナラムト斷定セリ。

其後同患者ハ約十年後ニ於テ死亡シ池田廉一郎博士之ヲ解剖シ其所見ニヨレバ、膀胱ハ前上方ヲ除ク外全ク膠様絨毛ノ如キ腫瘍ヲ以テ滿サレ左側子宮附屬器ハ全部膀胱ノ兩側ニ融着シテ箇々ニ鑑別シ得ズ、且腫瘍組織中ニハ骨、軟骨、脳組織、甲狀腺、粘液腺、殊ニ膀胱ノ左側下方ニ於テ囊腫變化ヲ呈セル卵巢壁ニ一部ヲ見シト、ソレ故本例ハ全ク卵巢ニ原發シ次ニ膀胱ニ穿破シタル複雜性皮様囊腫ナリト云ヘリ。

次ニ余ハ最近岡山縣病院産婦人科ニ於テ膀胱壁ニ原發シタル考へ得ル皮様囊腫ノ内容タル毛髮ヲ核トシテ形成セラレタル結石ヲ以テ左ニコレガ病歴及ビ其所見ヲ略述セン。

患者 近〇チ〇、五十五歳(農)岡山縣赤磐郡太田村。

(既往症) 遺傳的關係トシテ何等注意すべき事無シ。患者ハ生來健全特記すべき疾患ヲ経験セズ。十八歳ニシテ月華開キ爾來正規ノ經過ヲ取リ五十二歳ニテ閉止セリ。五回分娩毎常平滑ニシテ二兒ハ不明ノ疾患ニテ倒レ、他ノ三兒ハ今尙ホ健全ナリ。

(現症) 患者ハ體格營養共ニ中等ニシテ皮膚ハ稍蒼白、顏面稍憔悴セリ。胸部ハ皮見ナシ。下腹部ハ幾分膨脹シ壓痛ヲ訴フルモ腫瘍ハ觸知シ得ズ。

内診所見 尿道口ハ著シク發赤腫脹シ、且壓痛甚シキモ壓ニヨリ膿汁排出ヲ認メズ、腔内ニ指ヲ挿入シ腔前壁ナ少シク壓スレバ疼痛ヲ訴フ、而シテ前壁壁ニ隔テ膀胱部ニ異物ノ存在セリヤナ思ハシメタリ。故ニ尿道口ヨリ消息子子以テ膀胱内ニ挿入シタルニ移動性ナキ硬固ナル結石感ヲ觸知シ得タリ。子宮附屬器ノ所見ハ疼痛ノ爲觸知スルチ得ズ。又膀胱子宮頭部瘻アリテ尿ヲ漏セルナ知レリ。膀胱鏡検査ハ之ヲ行フコト能ハズ不取敢手術ヲ行フ事トセリ。

手術所見 「ナルコボン、スコボラミン」一・〇立方厘米ノ皮下注射、「トロバコカイン」〇・〇五瓦ノ腰髓麻酔ノモト

ニ原教授執刀膀胱切開法ヲ行ヒタリ。先ツ尿道外口ノ下方ニ一塊ノ所ヨリ子宮腔部ニ到ル前壁ニ切開ヲ加ヘ膀胱壁ニ達シ之ニ約三塊ノ縦切開ヲナセリ。手指ヲ以テ検スルニ結石ハ膀胱右後壁ト堅ク融着シテ移動セズ。依テ指ヲ以テソノ融着部ヲ漸次剥離シ結石全部突出ヲ碎キツツ漸ク之ヲ取り出スコトヲ得タリ。結石ノ融着部位ニハ多數ノ毛髮塊ヲナシテ重積シヲレルガ爲メ出來得ル限り之ヲ取除キタリ、而シテ後充分膀胱内ヲ洗滌シテ手術ヲ終レリ。毛髮及ビ結石ノ性状。

毛髮ハスベテ短ク長キモ四塊ヲ超エズ割合色素ニ乏シクシテ灰白黒褐色ヲ呈ス。ソノ断面ハ略圓形ヲ呈シ多角形ナラズ。且捲縮ヲ見ズ。

結石ハ約鶏卵大ニシテ脆弱ナリ。表面粗糙ニシテソノ破碎面ヨリ外方ニ表ハル。中ニ毛束ヲ有シテ破碎面ヨリ外方ニ表ハル。

結石ノ化學的性状ヲ知ランガ爲メ定性分析ヲ行ヒタルニ (Neubauer-Huppert; Analyse des Harns II.)

- (一) 細碎セル結石ノ少部分ヲ試験管ニ入レ、鹽酸ヲ注加セシニ著明ノ炭酸瓦斯發生ヲ見ル。
- (二) 細碎セル結石ニ大量ノ稀鹽酸ヲ注加シ濾過ス殘渣ノ一部ヲ白金板上ニ灼熱スルニ青酸ノ臭氣ヲ發ス。
- 他ノ一部ニツキ「ムレキシード」反應ヲ行フニ強ク陽性ヲ示ス。

(三) 鹽酸溶液ニツキ次ノ検査ヲ行フ。

(イ) 溶液ノ一部ヲ取り鹽化「バリウス」液ヲ注加スルモ認メ得ベキ沈澱ヲ生ゼズ。

(ロ) 溶液ニ「アムモニア」ヲ加ヘ強「アリカク」性トナシ濾過シ濾液ニ「アムモニア」性銀液ヲ加フルモ沈澱ヲ生ゼズ。又濾液ヲ蒸發シ殘渣ニ硝酸試驗ヲ施スモ陰性ニ終ル。

(ハ) 濾液ニ炭酸「ナトリユウム」ヲ加ヘ沈澱ヲ生ゼシメ、更ニ鹽酸ヲ加ヘ溶解シ、再び30%醋酸「ナトリウム」溶液ノ過剰ヲ注加シ放置スルニ沈澱ヲ生ズ、而シテ之ヲ濾過ス。殘渣ヲ「アムモニア」ニテ所置シ、更ニ醋酸ヲ加ヘ「ナス

藤田一膀胱發毛症ニ因スル膀胱結石ニ就テ

四六〇

「チン」ノ検査ヲ行フニ全ク陰性ニ終ル。「アムモニア」ニテ所置セシ殘渣ヲ鹽酸ニ溶解シ、之ニ醋酸「ナトリウム」ヲ注加シ再び沈澱ヲ生ゼシメテ濾過ス。殘渣ヲ灼熱シ醋酸ヲ加フルニ、炭酸ヲ發生シ溶解ス。之ニ磷酸「アムモニア」ヲ加ヘ「カルシウム」ノ多量ヲ證明ス。

濾液ノ一小部分ニ「アムモニア」ヲ加フルニ溷濁ヲ生ズ。

依ツテ次ノ検査ヲ行フ。

1. 濾液ノ一部ニ磷酸「アムモニン」ヲ加フルニ磷酸「カルシウム」ノ鹽酸ニ溶解スル微細ナル白色沈澱ヲ生ズ。
2. 磷酸「アムモニン」ヲ以テ完全ニ沈澱ヲ生ゼシメ加溫放置シ濾液ヲ蒸發シ「アムモニア」ヲ加フルニ結晶性ノ「アムモニア、マグネシア」ノ沈澱ヲ生ズ。
(細碎セル結石ニ稀鹽酸ヲ加ヘ濾過シ濾液ニ「ナトロン」液汁ヲ加ヘ強「アルカリ」性トナシ、「アムモニア」ヲ證明ス)。

以上實驗ノ結果確實ニ證明シ得タルモノ次ノ如シ。

尿酸、炭酸(多量)、磷酸、「アムモニア」、「カルシウム」(多量)、「マグネシア」

結論

本患者ノ膀胱結石ハソノ膀胱内ニ存在セル毛髮ガ成因ヲナセルヤ論ナシ。然ラバソノ毛髮、出所ニ就キテ次ノ三ツノ場合ヲ考ヘザルベカラズ。

一、外部ヨリ尿道ヲ通ジテ陰毛ノ入り來タル場合。

二、膀胱ノ近隣臟器ノ皮様囊腫ガソノ内容トスル毛髮ヨリ結石ヲ形成スル場合。

茲ニ於テ本患者ノ結石形成ニ就キテ一考スルニ第一ノ場合ハ直チニ否定シ得、即チ前記ノ如クソノ毛髮ノ性質ヨ

リ考ルモ陰毛ニ非ザルヲ語リ、且カク多數ノ陰毛ガ尿道ヲ通ジテ入り來タリシトハ考へ能ハザル故ナリ。

又第二ノ場合モ相當セズ、即チ本患者ヲ手術後内診シタルニ卵巣其他ニ何等異状ヲ認メ得ザリシヨリ續發性皮様囊腫ニ非ズトナスヲ得。

即チ本例ハ手術及ビ内診處見等ヨリシテ、膀胱内ニ原發セル皮様囊腫ガ、ソノ内容タル毛髮ヨリ結石形成ヲナシタリトスルヲ得。

而シテ膀胱壁ニ發生セル皮様囊腫ノ結石ニ變化スルニハキユステル氏說ノ如ク腫瘍ガ破壊シテ結石ノ核トナルモノト、腫瘍ソノモノニ尿酸鹽等ガ沈着シ以テ結石ヲ形成スルモノトノニツラ考フル事ヲ得。

本例ハ膀胱壁ニ何等腫瘍ラシキモノヲ觸知シ得ザリシ故前者即チ腫瘍ガ破壊シテ結石トナレルモノナリト考へ得ルナリ。

以上ヲ總括シテ考フルニ、
本例ハ膀胱内ニ原發セル皮様囊腫ガ破壊シ其ハ内容タル毛髮ガ核トナリテ結石ヲ形成セハ稀有ナル例ニ屬スルモノト断シ得可シ。

懇篤ナル御指導ヲ賜リシ恩師原博士竝ニ結石分析ニ關シテ多大ノ援助ヲ與ヘラレシ醫化教室畠山氏ニ滿腔ノ謝意ヲ表シ、コノ稿ヲ終ル。

Literature.

1) Baeccker; Ovarial Dermoide.

2) 池田廉一郎；滝川學士が供覽セル歯科核トセル結石ヲ右石セシ膀胱ノテモノストラチオノ 中外醫書新報 第七百七十九號

3) 大森大亮；結石ヲ形成セル假性膀胱發毛症ニ就テ 関山醫學會雜誌 第三百三十二號七百十七頁 大正六年

- 4) Saniter; Durchbruch eines Dermoides in die Blase, Zeitschrift f. geb. n. Gyn. Bd. XLV, S. 386, 1911.
- 5) Schmitt; Durchbruch eines Dermoides in die Blase, Central blatt f. Gyn. S. 136, 1901.
- 6) Sixer; Beiträge von Ziegler, Bd. XXXI, S. 452, 1902.
- 7) 遠川正男; 皮様囊腫ノ内容タル歯牙ヲ核トシテ形成セル膀胱結石ノ一症例 東京醫事新報 第千二百三十六號二千五百八十九 明治三十四年
- 8) 鈴木喜代之助; 毛髮ヲ核トセル膀胱結石ノデモンストラチオン 東京醫事新報 第千四百九十九號三百七十一頁 明治四十年
- 9) 高橋明; 膀胱皮様腫ノ一例 中外新報 第八百六十號九十三頁 大正五年
- 10) 吉川博; 膀胱壁ニ生ジタル皮様囊腫ノ結石ニ變性シタル一例 研究會雑誌第六十二號四十九頁 明治三十七年
- 11) 吉村源四郎; 毛髮ヲ核トセル膀胱結石ノ一例 中外醫事新報第七百八十四號千五百十三頁 大正六年
- 12) Zuckerlandis; Handbuch der Urologie, Bd. II, 1904.